

令和5年第2回東北町議会定例会会議録

令和5年6月6日（火曜日）午前10時00分開議

○議事日程（第2号）

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

○議長（岡山粕男君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は4名であります。

通告順に発言を許します。

13番、蛭澤正雄議員は、一問一答方式による一般質問です。蛭澤正雄議員の発言を許します。

〔13番 蛭澤正雄君登壇〕

○13番（蛭澤正雄君） 13番、蛭澤正雄、一般質問させていただきます。

1番として、町政運営に関する基本方針について、前回に引き続き質問したいと考えております。東北町全体見ても、非常に高齢化が進んで、各町内会の活性化といいますか、そういう意味においては本当に全体の中で非常にないなと考えております。

そういう中において、町長は所信表明の中で「地域の発展及び存続のためのソフト事業が少ない状況から計画を見直し、各地域、町内会等が自分の地域の将来像を見据え、発展、存続していくために必要な住民参加型の計画を策定し地域の活性化を図ってまいります」と、そういうふううたっています。そして、「青森県とのパートナーシップにより昨年度から取組を行っております。本年度も各町内会をはじめとした地域団体が、自らの地域を発展・存続していくための将来像について自ら決定し、地域の持続的発展のために必要とされる計画を自ら作成する取組を行ってまいります」とあります。町長ももう2年経過しました。そういう中で、本当に今の地域の現況の中では各町内会が、限界

集落という言葉がありますけれども、限界町内というのも非常に最近多いのではないかなと、そういう意味ではこの掲げたのは非常に大事だなと思います。

ただ、そういう中において、3年目の計画の中に何ら各町内会と申しますか、各自治会、それが自ら作成する取組の町としての方向性と申しますか、そういうのは全然見えていないなど。せつかくここまでやりながら見えてこないということで、このところを今どういうふうに進めているのか、そこをご答弁願いたいと、伺いたいと思います。

続きまして、2つ目といたしましては、蛭沢地区学習等供用センターです。蛭沢地区学習等供用センターを東北小学校放課後児童クラブが、元幼稚園の建物、幼稚園の子供用の施設です。中が小学生にふさわしくない、部屋も狭くて非常に大変だなと。そういう中においても、2つの教室をその中で、今クーラーをつけて放課後児童をやっているようです。ただ、最近温暖化の中で、何か非常に暑いのですよね。2つの教室はクーラーがつかますけれども、子供たちはあの狭い部屋にいるわけです。子供たちが暑い中においても伸び伸びと暮らせるような環境づくり、少子化対策の中で子供たちの学ぶ、遊ぶ、そういう環境づくりは、これはやはり大人の、行政の責任だと思います。

そういうことで、私は去年の9月に教育長さんをお願いしておりましたけれども、学供センターの施設の改修をお願いしたいと。まず、ホールのクーラーの設置をお願いしたい。2つ目は、水飲み場、非常に子供たちが小学生になると体が大きいので、幼稚園用ではとても水飲み場が不便だと。あと、トイレも、子供用のトイレは別なほうに今はないようですけれども、大人用のトイレを子供たちに使用させていると。大人用ですので、小学校の低学年にすると、おしっこすると跳ねてくるとか、非常に不衛生だと、そういう声も聞こえております。そういう面で、これからというよりも、まだ何も手をつけていないようですけれども、これからどういう改修予定なのか、それをお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（岡山粕男君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） それでは、13番、蛭澤正雄議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の町政運営に関する基本方針についてお答えをいたします。質問要旨の地域の持続的発展のために必要とされる計画を自ら作成する取組、具体的な内容を問いますについてであります。私が町政運営における重要施策の一つとして、住民力が生きる協働のまちづくりを掲げております。

住民の自主性、自立性を促し運営されていく全員参加型の協働のまちづくりを進める一つとして、現在青森県型地域共生社会実現に向けた取組に参画をしております。テーマとして、高齢化、人口減少による地域課題の見える化と対策について、1つの町内会をモデル地区として、地域住民が参加し、話し合いをしているところでございます。今年度は地域課題解決のため、引き続きワークショップを開催し、地域の実情を踏まえた計画を作成し、実行に移すこととしております。

地域の住民が参加しやすい、意見を出しやすい、そして意見が反映されやすい手法により、その地域の未来のために本当に必要な取組を自ら考え、自らが実現可能な計画を策定していき、その中でどうしても行政の力が必要な部分が生じると思われるため、その部分については行政で支援をしていき、そのスキームづくりをしております。

自らの地域において、地域の未来のために、そして持続可能な地域づくりのために、住民自らが必要な取組を考えていくことが重要と考えております。今までも各町内会などで取組を行っているところでありますが、今回のモデル事業を地域づくりのスキームとして進めていき、地域に住む人々は地域のために、地域の身近な課題等を共有し、つながり、支え合う地域共生社会を自ら考え話し合う地域にしていきたいと思いますと考えております。

また、現在取り組んでおりますとうほくまちづくりミーティング、ミニ座談会におきましても、今回の事業とは別に、地域共生社会を含むまちづくりに関してのテーマであれば、地域コミュニティー組織、町内を拠点とする各種団体、もしくはグループであれば開催できますので、よろしく願いいたします。

蛸澤議員におかれましては、今までも地域の持続的発展のためにご尽力されてきているところでございますが、今後におかれましても、まちづくり、地域づくり、人づくりにご理解、ご協力を賜りたいと思っておりますので、よろし

くお願いいたします。

質問事項2の蛭沢地区学習等供用センターについてお答えをいたします。質問要旨の蛭沢地区学習等供用センターを東北小学校放課後児童クラブが2部屋使用しているが、それだけでは狭く、ホールを使用しているようですが、最近暑い日が長いのでエアコンの設置、水飲み場が幼稚園児用なので高さの調整、男子用のトイレが大人用なので小学生用に交換できないかについてであります。まずホールのエアコン設置につきましては、昨年度に比較して入会人数が多くなっております。この入会人数というのは、放課後児童クラブの入会人数であります。新型コロナウイルス感染症においても、5類へ移行したことに起因して、これからの実使用者の増加も予想されております。利用児童が健全に利用できることを念頭に、今後の利用者数の推移を注視をいたしまして、対応を検討させていただきたいと思っております。

次に、幼稚園児用に低く設定されております現在の水飲み場の高さ調整でございますが、こちらにつきましては、令和5年度当初予算への計上済みでございます。本年度実施の予定でございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

最後になります。男子用トイレの小学生用への交換についてでございますが、隣接する東北小学校の小便器のサイズと、ほぼ今のこの大人用のサイズは同サイズであります。ですので、交換ではなく、現状立ち位置プレートなどの設置や、児童への使用方法の指導によって対応し、衛生上問題がないかどうか、またどうなのかということの様子を見てまいりたいと思っておりますので、ご理解賜りたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 最初に、地域の持続的発展ということで、ある町内を3年計画で県の共生社会ですか、これは国、県も事業として持っているようです。そしてまた、県では募集して予算もつけているようですけれども、県そのものはワークショップの人件費、そういうのはつけているようです。私聞きましたら、物品、固定資産というのはつけていないようですので。そういう中において、それを利用することは非常にいいことなのですけれども、ただ私が言っているのは、各町内会が自主的に何を、困ったこと、いろんなこととお話する

というのですけれども、町としては共生社会という、何を目的にするのか、その辺。よそのほうを見ると、福祉的なことを非常にテーマとして話ししております。つまり前にも言ったとおり、独り暮らしと見守りとか、先ほど蛭名議員が言ったようなごみ収集のいろんな問題とか、そういうのをやっていくようですけれども、町として自ら作成、取組をすると、こうあるのですけれども、具体的にそれをどういうふうに進めているのか、その辺が私見えてこないの、町としてこの計画を3年度として、3年目ですから、私は当初予算取って、こういうふうに進めていただきたいというふうな、そういうふうなことをやるのかなと思ったら、全くないので、それを町としてはどう進めるのかというのを聞きたいということです。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 蛭澤議員にお答えをいたします。

ちょっと話が長くなるかもしれませんが、ご了解いただきたいと思います。まず、町として進めていく一つの形として、青森県型地域共生社会、つまり県が今提案している、まさに先ほども蛭澤議員から再三申されているような自主的にいろいろな問題、課題に向き合って、この地域をしっかりと前に進めていくということのサポートを県がするという事の中で、町もそのサポートに入って、例えば県においてはソフト的なスキームづくりであったり、そのスキームをつくるための最初の取っつきを大学の先生等をお願いをしてつくるのであるならば、大学の先生に声をかけたりして来ていただいたりとか、そういったもののお手伝い。なおかつ町としては、その中で職員の方々も、地域ミニ計画の際に振り分けられた職員たちが行って、一緒に物事を考えるというふうな形で、今回はある集落、これは保戸沢集落なのですが、保戸沢町内会の人たちに1つのモデルになってもらって、それを2年、3年計画で示して、それを今度はほかの町内会に波及させるというような、本来これからやっていくスキームづくりをしているところでございます。

あとは、自主的に何をというお話がありましたが、自主的に何をに關してですが、その何をこそ、各町内会によって違うと思うのです。ですので、各町内会で何をというものをテーマにするのか。それは、例えば蛭澤議員がおっしゃったような独り暮らしの方々これから増えていく中で、どういうふうにして

そういう人たちをサポートしていくということが重要だという町内会もあれば、うちは商店街が疲弊しているから、商工会と連動していろんなイベントを開催できないかと、そういった形で地域を維持していこうという町内会もあるかもしれませんし、いや、私のところは伝統芸能をしっかり守って、それを受け継ぐことが町内会おこしに関わるのだと。先ほど蛭名議員からもいろいろご質問あったように、うちの町内会で問題になっているのは、町内会の会員の方々のモラルが問題になっているとするならば、そういったことを重点的にテーマを決めて、この町内会が持続的に発展し、またみんなが気持ちよく住めるためにどういうふうに発展していくかということを決めることでございますので、町がテーマを選定して、これによって話をしなさいということではないということとをまずご理解いただきたいと思います。

その上で、例えば町内会、町、今回の場合は青森県型ですので、県が役割分担を行って、しっかりしたスキームをつくる。そして、そのスキームを基にして、各町内会にも波及をしていく。各町内会は、それを見習いながら自分たちで今度は自主的にスキームをつくって、各町内会がしっかり中長期的な視野に立った計画を練っていくことによって、自主的、自発的な町内会の維持、存続に進んでいくというのが青森県型地域共生社会の狙いでありますので、そういった形で町はサポートしていくところが町の立ち位置であると思いますので、ご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、行政としての役割と、今保戸沢が3年計画でワークショップなり、いろんな話合いをしていると、これは1つのモデルだそうなんですけれども、ではこのモデルをやったら、町としてこのモデルをどういうふうに生かすのか。どういうふうな組織、今きちっとした町内会は自主的に計画並びにいろんな会費を取って運営していますよね。その上に立って、保戸沢地区の共生社会づくりのモデルを町としてどういう形で、ただのせるだけなのか。町として、やはり町内会にこういうふうに、何か目的がいっぱいあるからというふうな感じですけども、でも基本は町内会として自主的にどういうふうなのを町として望むのか、それが見えてきていないのです。私はそれを聞きたい。

3年、これをやりました、では町内会は自主的にこういう計画を立てる。いろんな計画があります、それは町内によって違います。本当に高齢化で、もう町内会も運営できるかできないか分からないところもある、若いところで活性化あるところもある。でも、活性化のないところはいろいろありますよ、いろんなテーマがある。ただ、今こういう共生社会を国、県が一生懸命やっているわけです。その中で、我が町もこの共生社会、保戸沢を3年計画にのせたわけです。では、国、県、町村で、私としては本当は町全体の中で共生社会の指定を受けていただきたいと思ったのだけれども、そういかないようですので。この補助はいろいろあるみたいですが、ただ私が言いたいのは、3年の中で終わったら、この補助はこれじゃないです。聞きましたら、もう打切りだそうです。その中で、町はいかにこのモデルを参考にしながら進めるかというのが、そこを私は聞きたいと思っていました。それを伺います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

まず、蛭澤議員に、町として町内会へ何を望むのかというふうなお話でしたが、町として町内会へトップダウンでどうするこうするということではなくて、各町内会が自発的に、例えば町内会で寄り合いがあったり、各町内会は3月になれば、今議員がご指摘あったように町内会費とか集めたりしていると町内会の総会とかもあるでしょう。そういった形の中で今後の町内会を考えたときに、こういう形に進んでいきたいなど、そのためにはこういうふうな問題があるなということをおっしゃるいろいろな話合いの中で問題点を洗い出す、提起をして、そうやって進めていくということでもありますので、そういった町内会の自発的な考え方こそが、実際町内会が自発的になることによって、そういう単位が町をつくっていくわけですから、しっかりそういうふうな形の中で自発的な自立的な部分を促すと。それに対して、皆さんが積極的にやっていくことに対して、今回は県と町がサポートできるところはサポートしていくということでございますので、改めてご理解をいただければと思います。あくまでも問題点というのは、その町内、町内で違うわけです。その町内、町内でしっかり自分たちが問題点を精査すること、その作業をしていくということです。

今回保戸沢地区にスポットを当てましたが、例えば保戸沢地区というものをモデルにして、そのモデルを見習って、そこでは町の役場職員も立ち会って、町の役場職員自体も、こういうふうにスキームをつくるのだな、こういうふうに進めていくのだなということを皆さん学んでいるわけです。そういった役場職員たちが今度は、3年で県の補助金は切れるわけですが、役場職員のそういったスキルを、各町内会で手挙げして、私たちもそういったスキームをつくりたいといった場合には職員に手伝いをしてもらって、その中で例えば足りない部分というのは、町がいろんな意味で、いろんな360度の角度の中でサポートできる部分はサポートしてまいりたいと思っております。

いずれにせよ、各町内会がまた改めて今後自分たちが生きていく中で、しっかり地域を見据えて話し合っていくということを、しっかりした基本とした考え方にしておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、私ちょっと意味分からないところがあるのですが、町内会はきちっと自分たちの中で、いろんな問題を話し合っています。役員会なり総会で、会費も上げたり、足りないので会費を上げますとか、そういうのをいろいろやっています、今現在も。それに合わせて国、県が将来像として、少子高齢化でこういう共生社会をつくりましょうというふうな、そういうものを示しているわけです。我が町もそれに3年間、保戸沢が指定を受けて今やっているわけです。何か町内会がまだやっていないような話ですけども、町内会は皆しっかりやっていますよ、今現在も。町長だって、各ミーティングやっているでしょう。その中で分かっているでしょう。

そういう中で、やはり国、県、町もそういう考えで計画といいますか、そういうのが見えないから私は言っているのです。言ってもちょっと進展性がないので、私が1つ言いたいのは、せっかくこういう国、県、我が町にも3年計画でそういう共生社会のためということでもありますので、その辺を考えていただくことを要望しておきます。

次、2番目の学供センターの件ですけども、水飲み場は改修すると、そういうことで非常に私もありがたいなと思っております。ただ、エアコンが100万

かかるのか、何十万かかるのか、ちょっと私も分かりませんが、今役場も5月からクールビズにするという、そして今非常に温暖化でみんな暑いと。そしてまた、全国的にも熱中症になって子供たちが運ばれたという、先般もテレビ報道ありましたよね。そういう中では、私はできるなら、調査も大事ですけども、やはり子供たちが環境のよい放課後児童クラブで過ごせるようにやっていただきたいと思うのだけれども、町長、もう一回その辺どう考えているか聞きたいと思いますけれども。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

蛭澤議員と同等、ないしはそれ以上に私も子供たちの生活する環境について大変留意しておりますし、そういったことを整備するということは大変必要なことだと思っておりますが、以前からそういったことについてのご指摘がありましたが、以前は放課後子ども教室という形だったり、現状とちょっと体制が違う形で、私が報告をいただいているときは、そのホールは年にほとんど使われていないという報告でしたので、使われていないところをわざわざ整備、設置するよりも、むしろ今甲地小学校、上北中学校にエアコンを設置しますが、そういった必要不可欠なところに設置をしないといけないという思いで今回やらせていただきました。

ただ、令和5年になり、コロナも5類になり、今放課後児童クラブにも移行した中で、蛭澤学供センターを使用する子供たちの延べ人数が大変増えているという報告もいただきましたので、私は前向きに検討をしながら、これは必要だと思えば、設置のほうに向けて動いてまいりたいと思っておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 最後にいい返事をいただきましたけれども、当然です。子供たちが共稼ぎの中で、いろんな面でやはり子供たちのために、町長は私以上に考えていると言っていましたので、ぜひとも早急にそれを実現するように要望して終わります。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　これで13番、蛭澤正雄議員の一般質問を終わります。